

ORTHODONTIC RECORD AND TREATMENT CHART

担当

ID:

KeyWord

お名前(フリガナ)

初診日 年 月 日

主訴

女

初検査 年 月 日

生年月日(西暦)

初診

身長

cm/体重

kg

紹介者

年 月 日/ 才 ヶ月

装置撤去

身長

cm/体重

kg

礼状 ☐

成人

身長

cm/体重

kg

〒

住所

疾患: ☐

全身:

遺伝的要因:

歯性 6: | 3: |
CL I II III
div 1 2

O.B

O.J

正中

U

顔の対称性

Good Fair Poor

Convex Concave

骨格: HA LA

歯冠

U

短根歯

L

上顎洞 ☐ HIGH☐ AVERAGE☐ LOW

正

側

歯列

L

ALD

歯冠

C G P risk

歯周組織状況

Dr.

DH

生活状況

DFGR(成長管理) 指導

骨年齢

頸椎年齢

早熟

MFT

舌小帯

mm

吸い上げ時

mm

短縮 Ope

①口唇

g

②呼吸

③舌

④咀嚼・嚥下

⑤唇

⑥鼻炎・鼻敏感

⑦歯肉炎

⑧発音

治療計画

抜歯

最終咬合

資料採取日

1

2

3

4

MKG EMG

DigiGnatho

DBS

金属/

白い装置

バンド(サイズ)

上 HG(HP Co Ce)(Spur)

FM

EXP/LA

下 EXP/LA

Lip Bumper

可撤式矯正装置

料金の概算、期間

診断のためのワークシート

I. DENTAL

Class I II III / Division(類) □1(前傾) □2(後傾)

Molar 6/6 R _____ mm / L _____ mm

Cuspid 3/3 R _____ mm / L _____ mm

欠損歯 R _____ □無し

交叉咬合 Crossbite □前歯部 □臼歯部 □両側 □無し

□機能的幅位 □明らかな非対称性 側弓アーチ

□開咬 □正常被蓋 □過蓋咬合

□乳歯 □混合歯列期

下顎歯列弓デウス _____ mm 叢生 空隙

上顎歯列弓デウス _____ mm 叢生 空隙

下顎前歯部組織の _____ □ふつう □厚い

上顎前歯部組織の _____ □薄い □ふつう □厚い

上顎前歯部 □先細い □よい形態

スピー _____ □深い Deep □平均 Average □平坦 Flat

アブフォーム □先細い狭い Tapered-Thin □平均 Average

□角張った幅広い Square-Wide

歯周組織の状態 □明確な問題なし □付着歯肉

□プローブ時の出血

□ポケット検査チャート

II. 顎関節

□現時点で異常なし _____ 置内容

□クリッキング □右 □開口 - 初/後期 □左 □初/後期

□耳 □圧迫感 □痛み (右) □痛み (左)

□頭痛 頻度 回/週 □開口量 _____ mm

□その他の症状 □ _____ □ _____

筋電計による早期接触の測定	右側第1小臼歯部	右側第2小臼歯部	右側第2大臼歯部	左側第2大臼歯部	左右第2大臼歯部	左右第2大臼歯部	第2小臼歯から左側第1大臼歯 (class)	第2小臼歯から左側第1大臼歯 (class)	右側第2小臼歯部	左側第2小臼歯部	バランスのよい咬合
L Ta	L	H	L	H	H	L	H	L	H	H	H
L Ta	H	L	L	H	L	H	H	H	H	L	H
L Ta	L	H	H	L	L	H	H	H	L	H	H
L Ta	H	L	H	L	H	L	L	H	H	H	H

L Ta/左側頭筋前腹 L Mm/左咬筋中腹 R Mm/右咬筋中腹 R Ta/右側頭筋前腹 H-High, L-Low

上記の表はK0モニター上に見られたレストモードでのMKGプロセスデータ(処理波形)を分析して得られる早期接触部位の推測方法です。治療計画を立てる前に、早期接触部位は必ずオクルザールインジケータースリックスを用いて確かめなくてはなりません。この方法を用いれば早期接触部位を素早く見つけることができます。

Ⅲ. 顔面計測

- ☐長頭系顔貌 (Dolichofacial) ☐平均的な顔貌径 (Mesofacial)
☐短頭系顔貌 (Brachyfacial)
 側貌: ☐Convex凸 ☐Straight ☐Concave凹
 顔に対して上顎の正中の変位 ☐右 ☐左 ☐なし
 唇: ☐薄い(上下) ☐平均(上下) ☐厚い(上下)
 Sublabial Fold (下唇下窩) ☐小さい ☐平均 ☐大きい
 Naso Labial Angle 鼻唇角 ☐90° 以下 ☐90°~100° ☐100° 以上
 歯肉が見える程度 _____ (2mm) / 前歯の切端に対しての上唇の安静位置 _____ mm (2~4mm)

Ⅳ. 筋機能

- 唇の緊張 ☐過緊張 ☐弛緩 上唇小帯異常 ☐悪習癖
 唇の状態 ☐安静時唇が開いている 反転 咬合姿勢
 開咬 ☐前歯部 ☐側方部 ☐全口部 最大開口 _____ mm ☐
 呼吸 ☐鼻呼吸 ☐口呼吸 ☐混合呼吸
 舌 ☐舌小帯短縮(小帯) 舌緊張 ☐舌突出癖(前歯部・側方部)
☐口呼吸 ☐咀嚼・嚥下

Ⅴ. 治療計画

- ☐非抜歯 ☐非抜歯・固定式及び機能的矯正装置 ☐抜歯

治療期間の予測

材料の概算、範囲

治療

抜歯

非抜歯

フェーズⅠ (1期, 早期) の治療装置と目的

- 1年 _____ ☐Ⅱ期の歯肉出待ち _____ 資料撮り
 2年 _____ 抜歯・非抜歯の再評価
 3年 _____
 4年 _____

アンカレッジ

- ☐TPA 6-6 ☐タイピング ☐カンガーマー ☐バンド7's 上/下
☐ヘッドギア ① _____ カル ②コン ③ _____ プル ④フェイスマスク
 ス _____ スパーなし
☐

その他必要費用

- ☐歯肉のレン ☐インプラント
☐適用される _____ ☐形態修正
☐補綴ブラケット ☐C充填
☐リテーナー ☐審美(充填・補綴)
☐開窓手術(ブラケット つける/つけない) ☐ホワイトニング
☐抜歯 ☐予防的処置
☐舌小帯切除 ☐最終資料・再治療時の資料
☐上唇小帯切除 ☐他院紹介
☐審美的歯肉切除術 ☐その他
☐皮質骨削除 コルチコトミー ☐
☐歯根膜繊維切断 ☐
☐特殊な保定装置 ☐
☐矯正治療後の歯肉移植 ☐

署名/患者保護者

印

VI. 側方レントゲン分析

骨格性

	Measurement	Mean	2nd SD	患者 開始 経過 終了		
SN-MP	SN-MP	40.2	クローズ オープン ±4.6			
PalatalPlane to Mandibular Plane Skeletal Open/Closed	ANS-PNS to Mand Plane	28	クローズ オープン 24 to 33			
Mand Plane Angle Skeletal Open/Closed	26 22	9yr FMA 成人 FMA	クローズ 20 to 30 オープン			
Y-Axis Growth	SGn-FH	59	平均 59 55 to 62			
Maxilla to Cranium (FH) N⊥Ref at A	N⊥FH at A	+1mm	後方位 前方位 -3 to +3			
Maxilla to Cranium	SN-MP	81°	後方位 前方位 76 to 83			
Mandible to Cranium (FH) N⊥Ref at Pog	MP-FH at Pog	-7mm 成人 -1mm	後方位 -10 to -4 前方位 -4 to +1			
Mandible to Cranium	SN-MP		後方位 前方位 75 to 83			
Maxilla to Mandible	ANB	2°	C I +2 to +4.5 C III 傾向 0.5 to 1.5			
Wits	A,B OcclusalPlane	0	Class I -1 to +2			
Mand Length	Cd-Gn					

歯性

	Measurement	Mean	2nd SD	患者 開始 経過 終了		
Interincisal Angle	1 to 1	130°	Finish 125 to 135			
1 IMPA 傾斜	1 to MP	92°	傾斜 前傾斜 89 to 95			
1 突出	1 to NP		後方位 前方位 +6			
1 突出	1 to APog	+2	後方位 前方位 0 to +4			
1 傾斜	1 to N	103°	後傾斜 前傾斜 99 to 106			
1 突出	1 to Pog	5mm	後方位 前方位 +2 to +7			
1 突出	1 to A ⊥ FH	4mm	後方位 前方位 +2 to +6			

顔面分析

Description-Relationship	Measurement	Mean	2nd SD	患者 開始 経過 終了		
鼻唇角		100°	90 to 110			
Soft Tissue Line	(E-line)Upper Lower	-2mm -2mm	-4 to +1 -4 to +1			

VII. 顎関節セファロメトリックの概略・要約

骨格:	オープン	平均	クローズ	
成長:	垂直	平均	水平	成人
上顎:	前突	平均	後退	
下顎:	前突	平均	後退	
Class:	I	II	III	Class III 傾向
歯:	下顎前歯:	前傾	平均	後傾
	上顎前歯:	前方位	平均	後方位
	前突感変化	前傾	平均	後傾
		前方位	平均	後方位
		変化させない		前進
		前歯最大牽引	牽引中程度(3-4mm)	牽引小(1-2mm)
I 期: ☐ Functional Correction	☐ ヘッドギア (Ce, Co, Hp)	☐ LA / TPA	☐ エクスプレッサー (Reverse)	☐ その他
☐ 上顎拡大	☐ 連続抜歯	☐ LA / TPA	☐ エクスプレッサー (Reverse)	☐ その他
☐ 下顎拡大	☐ リバースアーチ	☐ 舌小帯切除	☐ 外科	☐ その他

VIII. 治療概要

目的	治療選択考慮項目
限界	1 非抜歯
修正すべき性質がある項目	2 小臼歯抜歯
	3 大臼歯抜歯
	4 複合的抜歯
	5 特異な抜歯
	6 外科

非抜歯の

項目	許容範囲	下顎の前歯の影響
ALD	2mm = +1mm	
スピーカーブ	平均 = +1 Deep= +2 Flat= 0	
AP 前後的改善 (C II, C III)	50% u/l	
ワイヤー拡大	-1mm ~	
ストリップンガー前方/後方	1/2mm/tooth	
Total	mm	Not Accept / Accept

X. 上顎拡大—交叉咬合

Buccal Pit 6-6+1.6	mm	X Risk
-Mesial-Buccal Cusp tip 6-6=	mm	☐ Ext
+Over Correction (2-4mm)=+	mm	☐ 外科
+Expansion (Archwire)=	mm	☐ 歯根吸収
Total Expansion=	mm	☐ 骨・歯牙の喪失
Total	mm	☐ 脱灰している歯牙 カリエスリスク
Accept	mm	☐ 咬合の不完全な仕上がり
Not Accept	mm	☐ TMJ 症状
		☐ その他

ゴール・限界・治療選択・リスクの説明を確かに聞き、説明を受けました。指示された治療を受けることに同意いたします。また、写真やその他の検査記録を雑誌やセミナー等の専門的な学術的目的に使用されることにも同意いたします。

署名/患者保護者

印

X II. 混合歯列分析 MIXED DENTITION ANALYSIS

模型での計測

$\left[\begin{array}{l} 2-6 \text{ 間の距離計測値 } \textcircled{1} \quad \text{右} \rule{1cm}{0.4pt} \text{mm} \quad \text{左} \rule{1cm}{0.4pt} \text{mm} \\ 21 \perp 12 \text{ の叢生量 } \rule{1cm}{0.4pt} \text{mm} \times 1/2 = \textcircled{2} \rule{1cm}{0.4pt} \text{mm} \\ \text{歯冠巾 } 2 \rule{0.5cm}{0.4pt} \quad 1 \rule{0.5cm}{0.4pt} \quad 1 \rule{0.5cm}{0.4pt} \quad 2 \rule{0.5cm}{0.4pt} \text{ 計 } \rule{1cm}{0.4pt} \text{mm} \end{array} \right.$	2-6 間の距離計測値 ①	右 $\rule{1cm}{0.4pt}$ mm	左 $\rule{1cm}{0.4pt}$ mm
	21 ⊥ 12 の叢生量 $\rule{1cm}{0.4pt}$ mm	$\times 1/2 = \textcircled{2} \rule{1cm}{0.4pt}$ mm	
	歯冠巾	2 $\rule{0.5cm}{0.4pt}$ 1 $\rule{0.5cm}{0.4pt}$ 1 $\rule{0.5cm}{0.4pt}$ 2 $\rule{0.5cm}{0.4pt}$ 計 $\rule{1cm}{0.4pt}$ mm	

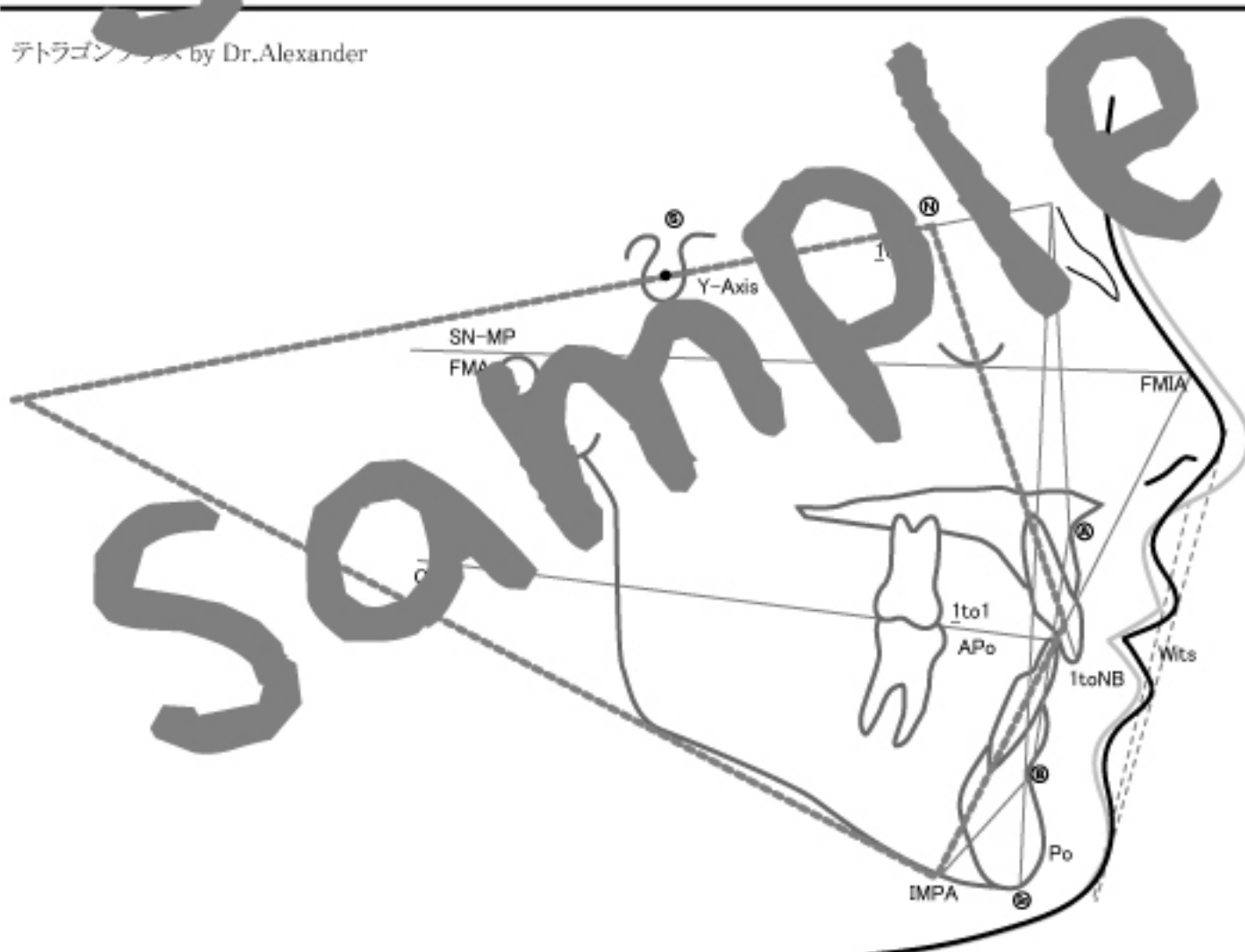
対比表

③ Σ 21/12 = 19.5 20.0 20.5 21.0 21.5 22.0 22.5 23.0 23.5 24.0 24.5 25.0 25.5 26.0 26.5 27.0 27.5 28.0 28.5 29.0
 3+4+5 予測値 20.1 20.4 20.7 21.0 21.3 21.6 21.9 22.2 22.5 22.8 23.1 23.4 23.7 24.0 24.3 24.6 24.8 25.1 25.4 25.7

A 前歯叢生改善後 3+4+5の萌出に使えるスペース (②)	右 $\rule{1cm}{0.4pt}$ mm
	左 $\rule{1cm}{0.4pt}$ mm
B 3+4+5のサイズ (上の対比表の予測値とレントゲンからの計測値)	右 $\rule{1cm}{0.4pt}$ mm
	左 $\rule{1cm}{0.4pt}$ mm
C Leeway space (mm)	右 $\rule{1cm}{0.4pt}$ mm
	左 $\rule{1cm}{0.4pt}$ mm

分析結果

テトラゴン分析 by Dr.Alexander



正しい歯並びの条件/「歯並び」のチェックシート

咬み合わせ・口元のバランス

口前後のバランス

・上顎の大きさ

小さい | | | 大きい

・下顎の大きさ

大きい | | | 小さい

・上顎前歯の傾き

小さい | | | 大きい

・下顎前歯の傾き

大きい | | | 小さい

下顎前突 | | | 上顎前突

口左右のバランス

・骨格のずれ

左 | | | なし | | | 右

・歯の左右方向のずれ

交叉 | | | なし | | | 缺状

口上下のバランス

過蓋 | | | 開咬

口スペース

あり | | | 叢生

口口元

後退 | | | 突出

個々の歯

先天性欠如歯(有・無)
過剰歯(有・無)
その他()

埋伏歯(有・無)
形態異常歯(有・無)
()

機能・習癖

舌癖 | | | 口呼吸 | | | 口唇咬み
爪咬み | | | 歯ぎしり | | | くいしばり
その他() | | | ()

Index 治療困難度

- | | | | | |
|-----------------------|---------|---|--|---|
| 1. 捻転歯数&捻転度 | | 易 | | 難 |
| 2. 歯数異常(欠如歯/埋伏歯/過剰歯) | | | | |
| 3. 正中偏移距離&度 | | | | |
| 4. 年齢・理解度・生体反応度 | | | | |
| 5. 叢生度・スペース度 | | | | |
| 6. 垂直的問題(オープン・クローズなど) | | | | |
| 7. 水平的問題(Ⅱ・Ⅲなど) | | | | |
| 8. 骨格的問題(下顎偏位・非対称など) | | | | |
| 9. 機能的・習慣的問題 | | | | |
| 10. 形態異常・歯質異常・歯周病 | | | | |
| 11. 関心度・協力度・前向き思考 | | | | |
| 12. その他く | > | | | |

1-7 UK Difficulty Index より 8-12 MOS original

個人的な治療経験や治療方針により、難易度を項目別に自己判定して難易度を決めてください。

患者様情報

アレルギー・病歴

その他 注意事項

DH

MFT

DFGR (食育・成長管理)

父 母
出世時
初診予約
遠征

Dr.指示

8	7	6			6	7	8
8	7	6			6	7	8

DATE	担	Arch Wire	P X im	Care	Work Completed	Next Schedule	Next Apo
		U					
		L					
		U					
		L					
		U					
		L					
		U					
		L					
		U					
		L					
		U					
		L					
		U					
		L					
		U					
		L					
		U					
		L					
		U					
		L					
		U					
		L					
		U					
		L					
		U					
		L					
		U					
		L					